

## アクシデントの概要及び再発防止策（平成28年度）

行為別	概要	改善策		
		区分	内容	
与薬・処方	投与間隔の間違い	手順の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤投与後、診察時には副作用状況を確認する。</li> <li>・医師に注射実施確認を行い、患者を処置室へ案内する。</li> </ul>	
		手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤局は、注射薬のオーダー時、投与間隔等確認し疑義照会する。</li> </ul>	
	手術時の過剰与薬	手順の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のスタッフにも「何の薬剤を」「何ml」投与するかわかるように声を出す。</li> <li>・「1（イチ）・2（ニイ）・3（サン）・・・」というように、指示量に到達するまで声を出して意識を覚醒させ投与する。</li> </ul>	
		手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指差し呼称を行うことにより、目の前の仕事へ集中する。</li> </ul>	
		その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急に手術担当者を変更することは、やむを得ない場合を除いてはあるべきではなく、その点を十分配慮した業務振り分けを行う。</li> </ul>	
	患者名間違いによる誤処方	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医師は処方時、薬袋やメモからの処方には特に患者名・処方内容に注意を払い、マニュアルを守って、確認することを徹底する。</li> <li>・担当薬剤師・看護師は新たに処方内容が変更・追加された時は確認する。</li> </ul>	
		その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疑問に感じたことは、そのままにするのではなく、他のスタッフに相談するなどの確認を行う。</li> </ul>	
	治療・処置	注射薬間違いによる誤投与	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭指示の薬剤を投与する場合には、マニュアルに従い、薬剤を医師とともに確認する。</li> <li>・医師は、緊急時以外は、薬剤投与等処置を中断する指示をしない。指示だしがあれば、看護師は優先順位を判断し、医師に伝える。</li> </ul>
		処置中の口腔底粘膜裂傷	その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優先すべき処置を話し合い、歯科処置が安全に出来る様にする。</li> </ul>
		骨折の見落とし	その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外傷などで緊急入院となった患者の画像について見直す機会を増やし、見落としを防止する目的で、整形外科医師複数によるミーティングを開催する。</li> </ul>
手術	手術中の頭皮裂創	手順の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急手術の場合は、手術申し込みがあった際に、術式と体位の確認を行う。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術体位をとったあと、医師と確認する。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ずれが発生しにくいマットを使用するようにした。</li> </ul>	
			<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳外科腹臥位・3点固定ピン使用時の体位マニュアルを見直した。</li> </ul>	
患者管理	弾性ストッキング装着時の褥瘡	手順の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弾性ストッキングを使用する場合には、褥瘡に対するアセスメントを十分に行い、皮膚状態の観察と記録を行う。</li> <li>・患者の背景に関わらず、マニュアルどおりに皮膚観察を十分行う。</li> </ul>	
		その他の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・褥瘡ケアの研修会に参加しアセスメント能力を養う。</li> </ul>	